



じょうとう

〒136-0071 東京都江東区亀戸 9-13-1 TEL: 03-3685-1431(代)



新任のご挨拶

整形外科 田中 遼成 たなか りょうせい

今年度より、東京城東病院 整形外科医師として勤務することになりました田中遼成と申します。

趣味は大学時代から始めたスノーボードです。大学時代は部活の仲間や大学の同級生などと深夜バスを利用して長期休みに行くことが多かったです。研修医時代に念願のマイボードを手に入れて、週末は研修同期とともに深夜から車を運転して雪山へ出向いてました。当時はキッカーやパークで飛んだりすることが多かったですが、整形外科医となってからはスノーボードでの鎖骨骨折や前十字靭帯損傷で運ばれてくる患者を診察する機会があり、飛ぶことは控えるようになりました。現在はグラトリと呼ばれる、滑っている中でスノーボード板の反発を利用して技を決めることにはまっています。



自分自身もスポーツを楽しむ気持ちを忘れず、整形外科診療では患者様に寄り添った医療を提供したいと考えています。何卒よろしくお願いたします。

整形外科 西村 涼 にしむら りょう

この度4月より入職しました、西村涼と申します。今年度で整形外科専攻医3年目になります。簡単ではありますが、趣味についてご紹介させていただきます。

僕は数年前からキャンプを始めました。幼い頃から両親に連れられてキャンプや釣りに行っていました。大学時代の友人と久しぶりに再会しキャンプに誘われたのがきっかけでした。ここ数年は家族や友人とキャンプに出かけるのが楽しみで、最初はテントの設営や火起こしに手間取っていましたが、今では道具も揃い、だいぶ要領を得てきました。



中でも焚き火を囲みながら澄んだ空気の中で飲むビールは格別です。



普段と同じお酒でもキャンプをしている時に飲むと美味しさが倍増するのは本当に不思議です。東京城東病院で人としても整形外科医としても少しずつ成長できるよう日々努力を重ねていきたいと思っています。これからも宜しくお願い致します。

糖尿病内科 南雲 彩子 なぐも あやこ

2026年4月1日付で採用となりました、糖尿病内科 南雲彩子です。ご縁があって、東京城東病院の週3日の非常勤医師として勤務することになり、大変うれしく思っています。私は研修医時代に指導医から糖尿病診療を教わり、その後一貫して糖尿病の診療に携わってきました。糖尿病専門医・指導医、また内分泌代謝専門医の資格を有しているため、糖尿病や甲状腺疾患などでお困りの患者さんをご紹介いただければお役に立てると思います。

私のソウルフードは、うちの子供たちが大好きな保育園直伝のカレーです。すりおろしりんごとレーズンで甘みを出します。出せば必ずペロリと完食してくれます。献立に困ったときのお助けメニューで、忙しい時に繰り返し出しても嫌がられません。色々な意味で大好きなカレーです。タイカレーやインドカレーも好きです。おいしいカレー屋さんをご存じでしたら是非教えてください。これからどうぞよろしくお願いたします。



麻酔科 蛭田 章子 ひるた あきこ

4月より入職いたしました、麻酔科の蛭田章子と申します。安全を第一に麻酔を担当して参ります。趣味は読書、映画鑑賞、音楽鑑賞です。「ショパン」というバラを育てています。色はアイボリーホワイト。



大ぶりで、ほのかな香りがする美しい花です。あるとき、音楽のみならず花の「ショパン」にも巡り合い、現在大切に育てています。



どうぞよろしくお願致します。



JCHO東京城東病院 理念・基本方針

(理 念) 地域の皆さんに必要なとされる安全な医療・福祉の提供に努めます

- (基本方針)
- 1 患者さんの権利と人格を尊重し、患者さん中心の医療を実践します。
 - 2 チーム医療を推進し、最善の医療を提供します。
 - 3 リスク管理と安全な医療を推進し、真実の公表をします。
 - 4 医療連携を積極的に推進します。
 - 5 地域の皆さんの健康管理を通じ、社会への貢献を目指します。
 - 6 健全な経営に努め、職員が誇りを持てる職場づくりをします。

この度、東京城東病院に着任しました副看護部長の小林です。前任地は、JAXA 宇宙科学研究所、リニア新幹線停車駅がある相模原です。出身地は、「リンゴ」や「ねぶた」(青森市はねぶたです)「字幕さえ表現ができない津軽弁」が有名な青森県弘前市です。所沢の看護学校を卒業し、目黒の病院に勤務、結婚を機に相模原へ移り住みました。愛猫家でもあり、自宅の保護猫4匹に毎日癒されています。

私は、これまで看護師長として、患者さんに寄り添う看護と、安心して医療を受けていただける環境づくりに努めてまいりました。その経験を活かしながら、地域の皆様にとって「ここにきてよかった」と思ってもらえるような病院づくりに取り組んでいきたいと考えております。

まだ新しい環境ではありますが、地域のことを学びながら、皆さまに信頼していただける看護を提供できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



公開講座

「冬季の血圧管理」を開催しました

2026年2月18日、亀戸東長寿サポートセンターとの共催で公開講座を開催しました。

当日は、初来院の参加8名を含む、総勢30名の皆さんにお越しいただきました。

野田和男内科診療部長による冬の時期における血圧管理の講演で始まり、「血圧とは・血圧の変動・血圧の目標値・冬の高血圧対策」と内容は多岐にわたりました。皆さん、頷きながら真剣に耳を傾けていらっしゃいました。続いて、亀戸東長寿サポートセンター職員の進行で「KOTO生き粋体操」を全員で踊りました。皆で頭も身体も使い、心までポカポカと温まる1時間となりました。

今回は、このような講座としては初の試みで、冬に開催しました。今後も、いただいた貴重なご意見を活かして皆で笑顔になれるような企画を考えてまいります。いつも当院を利用してくださっている皆さんも、まだ当院に足を運んだことがないという皆さんも、次のイベントをお楽しみに。ぜひお気軽にご参加ください！



亀戸東 長サポだより

(長サポ:長寿サポートセンター:地域包括支援センター)

新年度、長サポに新たな職員が加わり、元気よくスタートしました！
亀戸東長寿サポートセンターでは、毎月第三水曜日「KOTO 生き粋体操だよ！全員集合！」(東京城東病院2階健診センター前)と第四水曜日は認知症の方を介護されているご家族の交流の場として「おれんじる～む陽だまりの会」(亀戸ふれあいセンター)を開催しています。

「KOTO 生き粋体操だよ！全員集合！」は区独自の健康長寿体操で、初めての方もお手本をまねしながら無理なく体操ができます。「おれんじる～む陽だまりの会」は介護をする中で感じる葛藤や悩みを語り合える場です。お話が苦手な方も長サポ職員が交流のサポートをします！

運動してリフレッシュしたいという方や、認知症介護でお悩みのご家族の方など、ぜひ一度ご見学にいらしてください。ご参加お待ちしております。



亀戸東長寿サポートセンターは、江東区から委託を受けて、江東区亀戸7、8、9丁目に住む高齢の方と特定の病気で介護保険を申請する40歳以上の方の相談窓口です。介護・介護予防・認知症・権利擁護等の相談を行っています。

ご相談は、お住まいの地域の担当の長寿サポートセンター(地域包括支援センター)にご相談ください。

亀戸東長寿 サポートセンター

【場 所】東京城東病院 2階 【電 話】03-5875-3451

【相談時間】月～金 9:00～18:00 土曜 9:00～15:00

(定休日 日曜日・祝祭日・年末年始)



健康管理センターからのお知らせ

当院健康管理センターでは平日の午前中に、会社の健康診断、個人でもお受けいただける人間ドックや生活習慣病予防健診、就職時の健康診断などを実施しています。また、健康診断のオプション検査として、頭部MRI検査や胸部CT検査、動脈硬化や骨密度検査、血液による腫瘍マーカー検査、リウマチや甲状腺の検査などを追加してお受けいただけます。

<江東区区民健診>

今年度も6月より、江東区の各種健診（検診）が予定されています。当院では「基本健康診査」「大腸がん検診」「前立腺がん検診」「胃がんリスク層別化検査」「胃がん内視鏡検査」「乳がん検診」を実施する予定です。江東区から受診券が送付された方が対象となります。予約制となりますので、受診券が届きましたら、お電話でご予約をお願いいたします。

電話番号 03-3637-0945 (直通)
受付時間 平日13:00~16:30の間にお願います。



すっかり春めいてきて、毎年この時期になると決まって「何かを始めたい」という衝動にかられます。そんなとき、いつも思い出すのは吹奏楽部に打ち込んでいたあの頃のこと。『展覧会の絵』や『シエラザード』、『ガイヌ』、そして『レオノーレ序曲第3番』……。今思えばかなり手強い難曲ばかりでしたが、当時はただ夢中で楽器を鳴らしていました。「またあの楽器を吹こうかな?」と思いつつも、忙しさにかまけて重い腰が上がらず、毎年のように先送りにしてきたのです。ところが先日、衣替えのついでに整理をしていたら、押し入れの奥から「私をお忘れではありませんか?」と言わんばかりに、学生時代の苦楽を共にした相棒が現れました。久々に音を出してみると、指先こそおぼつかないものの、心はすっかりリフレッシュ。これを機に、まずはきちんとオーバーホール(楽器の掃除)をして、入門編からゆっくりと再スタートを切ってみようと思っています。(↓学生時代の楽器です!!)



薬の豆知識 No.44

「肩こりに効く薬」



近年、パソコン等の画面を注視する事が多くなり、「肩こり」に悩まされている方が急増しています。肩こりに効く薬には、飲み薬と呼ばれる「内服薬」、肌に直接貼り付ける「湿布薬」、痛みがある箇所に直接塗り込む「塗布薬」があります。筋肉や神経に直接作用させるために「注射剤」を用いることもあります。内服薬には炎症を抑え、痛みを軽減させる「消炎鎮痛剤」、筋肉の緊張を緩和する「筋弛緩薬」、筋肉疲労を和らげ神経機能の回復を促す「ビタミン剤」があります。湿布薬には2種類あり、メントール等が含まれる「冷湿布」では痛みや炎症の緩和、カプサイシンが含まれる「温湿布」では血流をよくすることで筋肉の緊張を緩和が期待できます。塗布薬では、手に薬を出して塗る「軟膏」や、スティック型で、手を汚さずに使用することができる「チック剤」等があります。内服薬では、妊娠中の方には注意が必要な成分が含まれることがあります。湿布薬・塗布薬では皮膚のかぶれが出る可能性があります。副作用が気になる時は、医師、薬剤師に相談してください。



参考文献 Medical Doc

2026年度の
接遇標語が決定しました!

2026年度JCHO東京城東病院の接遇標語が決定しました。16作品の応募の中から、以下の4作品が選ばれました。選ばれた標語と標語を作成した理由について紹介させていただきます。

- 4・5・6月 「ヒヤットを 皆に伝えて 事故防ぐ」
4階病棟 高野愛海さん
ヒヤリハットを集めていくことで危険なことの周知ができ安全につながると考えました。
- 7・8・9月 「思い込み 捨てて確認 もう一度」
放射線科 瀧澤輝さん
慣れや忙しさから思い込みが生じ、それが伝達ミスなどにつながるので、もう一度確認することでミスや確認不足を減らしたいと考えました。
- 10・11・12月 「手指衛生 相手を想う ワンプッシュ」
看護部 尾ヶ口徹さん
医療機関での手指衛生は院内感染を防止する最も重要な対策です。この感染対策行動が患者だけではなく、院内で働く全ての職員に対しても気遣う優しさの具体的な行動であるため、接遇の一環として提案させていただきました。
- 1・2・3月 「なにげない 会話で育む チーム医療」
栄養管理室 鴨下朋美さん
安全な医療提供のため、患者さんとの、また職員間でのちょっとした会話を大切にしたいと思い、考案しました。

2026年度もより良い接遇ができるよう、職員一丸となって取り組んでいきますのでよろしくお願いいたします。

